

牛久：学校周辺に見る自然

第74号

ひたち野西近隣公園

2012年3月22日発行

< 冬の水辺公園 ～3. 冬芽と樹皮 >

まぼろしの「冬の水辺公園」シリーズ。今回は、冬芽（ふゆめ、とうが）と樹皮（じゅひ）について。冬芽は、樹木が寒く乾燥した冬を乗り越えられるように、休眠中の葉や花の赤ちゃんをそれらから守り、温かく包みこんでいるカプセルのようなものです。多くの冬芽では、何枚かの鱗のような小さな葉で包まれています（鱗芽：りんが）が、中には裸芽（らが）といって、そのようなものに包まれず、前年の最後の葉がまだ小さいまま、たくさんの毛におおわれたりしてそのまま冬をこすものもあります。また樹皮は、その名の通り、樹木の幹や枝の表面をおおう皮。木の幹が太くなるにつれ、外側の部分が死んで厚く積み重なった部分で、さらに太くなることではがれ落ち、そのはがれ方によって、いろいろなもようをつくってきます。

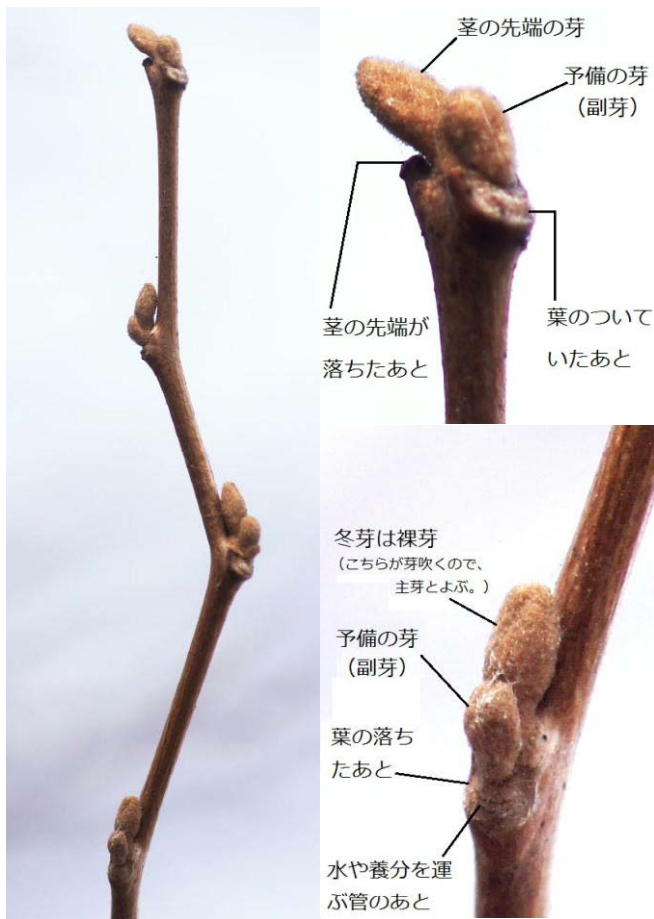


アカシデの冬芽(左)と虫こぶ、アカシデメムレマツカサフシ(右)。芽は枝にやや開いてつく。

右の写真のように、枝にたくさんの芽のかたまりをつけていることがありますが、これは虫が寄生することでできる虫こぶで、芽がたくさんで松かさのようなので、「アカシデメムレマツカサフシ」とよばれています。



こちらはアカシデによく似ている木で、秋には同じように果実の穂をぶら下げていたイヌシデです。でも、葉や果実の穂のない冬でも、簡単に区別することができます。アカシデと違って、芽は枝に密着するようにしていますね。そして枝の先端に、写真のような変な芽がついていることがあります。これはダニが寄生してできる「イヌシデメフクレフシ」という虫こぶです。公園内には両方ありますので、比べてみましょう。右の写真は、イヌシデの樹皮です。イヌシデの冬芽と虫こぶ、イヌシデメフクレフシ(左)。芽は枝に密着してつく。右は樹皮。



エゴノキの冬芽(裸芽)と樹皮。

次は、裸芽の例でエゴノキ。毛むくじゃらで、分かりにくいですが、この冬芽には、うろこのような小さな葉(芽鱗：がりん)がありません。裸では寒いので毛が発達したのでしょうか？さらによく見てみましょう。大きめの芽と並んで、小さな芽がついています。春になるとふつうは大きい方が芽吹きますが、そちらが虫に食われたりしてダメになると、かわって小さい方が芽

吹くのです。もしもの場合に備えて、予備の芽を用意しているわけです。また、芽がついている下には、先端の芽をのぞけば必ず葉のついていたあとが残っています。逆にいえば、芽は葉に抱きかかえられるような位置につくということです。だから、冬芽をたどると、葉がどのようについてたかを知ることができます。なお、エゴノキの場合、枝の先には茎の先端が落ちたあとが残っています。これは病気などで枯れ落ちたのではなく、そういう性質をエゴノキがもっているのです。よく観察してみると、同様の木はけっこうたくさんあります。さて、ちょっと難しい話でしたね。右は樹皮。縦に浅いさけ目が入るのが特徴で、右のように、株立ちになっていることもあります。これは、公園内のコナラやクヌギなどでもよく見られますが、木を切り倒した後、その切り株から眠っていた芽が芽吹き、成長してできた姿です。つまり木を切って利用しても死ぬことはなく、新しい幹が株立ち状になって再生してくるのです。「里山」などとよばれ、農業や生活と密接な関係をもっていた林に見られる姿ですが、いつか、そういった話もしてみたいですね。



左はネムノキ。逆三角形の葉のあとのすぐ上に芽が一つありますが、これはじつは予備の芽で、春に芽吹く芽は葉のあとの中に埋もれて、外からは見えないのです。春になるとそこがひび割れて姿を現し、芽吹きが始まるのです。**ネムノキの冬芽(副芽)と樹皮。主芽はかくれて見えない**

さて、^{むずかしい}難しい話が長くなりましたので、残りは公園内で見られた他の木々の冬芽や樹皮を^{かんたん}簡単に紹介して終わろうと思います。



コナラの冬芽(左：鱗芽)と樹皮(右)



アラカシの冬芽(左：鱗芽)

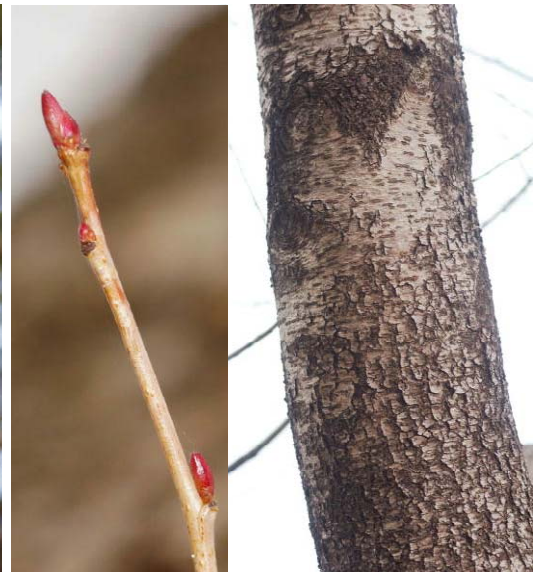


どんぐりのできる木の仲間(ブナ科)をいくつか集めてみました。どれも、うろこのような小さな葉(芽鱗：がりん)で包まれています。その枚数はそれぞれで、クリなどは少ないですが、コナラやアラカシにはたくさんあって”重ね着タイプ”ですね。樹皮のもようも^{さまざま}様々です(22年度 46号参考)。また、コナラもアラカシもクリも1年でどんぐりが^{せいじゅく}成熟しますが、クヌギなどは2年かけて成熟します。仲間といっても、それぞれ、似ている点と違っている点がありますね。

クリの冬芽(左：鱗芽)と樹皮(右)。枝の先端が落ちている



オオカンザクラの冬芽(左：鱗芽)と樹皮(右)



イヌザクラの冬芽(左：鱗芽)と樹皮(右)

次は桜。樹皮は似たものが多いですが、よく見ると種類によって違っています。また、幹の太さや年齢によっても違ってきますね。冬芽もよく見ると、芽鱗の枚数や色、毛の有無など、だいぶ違いがあるようです。花芽もふくらんで、もう咲き始めている桜もありますよ。探してみましょう。



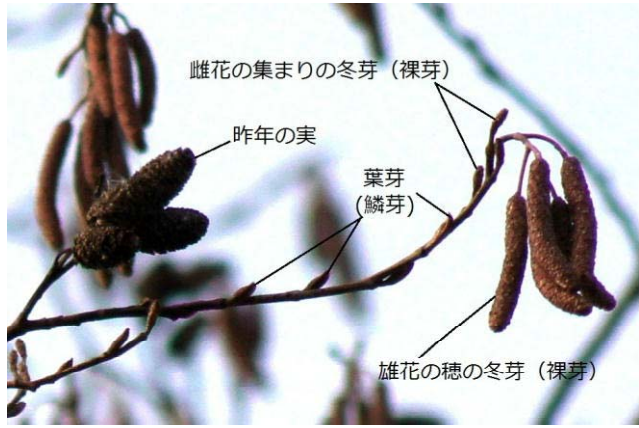
こちらは、ゴンズイ。秋に赤い実をたくさんつけて、鳥を誘っていた木です(22年度45号参考)。枝先には二つの芽が並んでいて、その間に丸いもようがついていますが、これは果実の集まり(果序:かじょ)が落ちたあとです。芽を包む芽鱗は、2~4枚だそうです。樹皮は縦にすじが入って、白と黒のしまもようで、その姿が魚のゴンズイに似ているという人もいます。

ゴンズイの冬芽(左:鱗芽)と樹皮(右)



左は何度も登場しているコブシ。67号では仲間のハクモクレンも紹介しましたが、大きくてたくさんの長い毛に包まれたのが花芽(はなめ、かが:花の赤ちゃんが入っている)。小さくて芽鱗の毛も短いのが葉芽(ようが:葉や茎の赤ちゃんが入っている)です。

コブシの冬芽(左:鱗芽)と樹皮(右)。大きくて、たくさんの長い毛に包まれたのが花芽。小さくて芽鱗の毛も短いのが葉芽。



ハンノキの冬芽。葉芽は鱗芽(りんが)だが、花芽は雌花も雄花も裸芽(らが)。

上の写真は、雨が降ると水に浸ることもあるハンノキ。葉芽は芽鱗に包まれています。花芽は裸のままです。早春に花を咲かせ受粉をすませます。水辺公園ではもう開花が終わり、雄花の穂が下に落ちています。

左は、ムラサキシキブ(裸芽)と仲間のコムラサキ(鱗芽)。花も実もよく似ていますが、ぜひ、実物を見て、比べて下さい。

【理科支援員 宮内】

ムラサキシキブ(左:裸芽)とコムラサキ(右:鱗芽)。コムラサキは枝先が枯れる。

